

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2025/8/29

団体名		NPO法人みんなのひろば		活動タイトル		不登校児童生徒が主体となって運営するひろばcafé楽来	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）						■ 活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)		当法人の実現したいビジョンは「不登校であっても、障がいがあっても、夢をもって育つことのできる地域社会づくりに寄与すること」である。 学校に行けず苦しんでいる子どもと保護者に寄り添い、子どもの人間関係の構築という面から、フリースクールの運営を中心に、自然体験・ものづくり・職業体験など様々な活動を通して支援し、子どもをとりまく地域の方々がネットワークをつくり、よりよい連携を図れるようなまちづくりを目指していく。そして、近所に不登校の子どもがいる家庭や障がい児のいる家庭があっても、偏見や差別的な見方をするのではなく、地域全体で、その子どもを、その家庭を見守って育てていく視点を広げていきたい。				夏だ！祭りだ！！ひろば夏祭りだ！！ 	
●団体の社会的役割(ミッション)		不登校児童生徒も障がい児も安心して過ごすことのできる居場所を提供すること、併せて、やがて障がい児も大人になるため、障がい者が安心してきて利用できる「住むところ」「働くところ」を提供することが当法人のミッションである。①フリースクールみんなのひろば…不登校の小中学生の学校復帰・進学・就職等をサポートする②みんなのひろば高等部…通信制サポート校として高校生を卒業まで学習サポート・自立サポートを行う③放課後等デイサービスほーかごひろば…発達障がい児・知的障がい児を対象として療育サポートを行う④グループホームりんごの木…共同生活を通して障がい者の生活・自立をサポートする					
●団体の活動基盤		●人材の確保と育成：しっかりと運営管理のできる事務局が存在すること。また、当法人の理念を理解し、子どもたちに関わることができる人材が常に活躍していること。ボランティア数名が常に登録されていること。 ●物的資源：プライバシーに配慮した個別のスペース、学習スペース、相談室、職員室、共有で使うスペースなど各事業所ごとに利用者と職員に配慮した十分なスペースと、利用者が用途に合わせて使いやすい設備が整備されている。 ●望ましい活動資金：利用数や制度上の理由で増減しない安定的な収入があり、リスクマネジメントとして全職員の約2～3ヶ月分に相当する貯えがある。当法人の活動が多くの人に支持され会費・寄付について十分に確保できている。					
■ 活動報告				■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			
不登校児が主体となって運営するひろばcafé楽来では、引っ込み思案の子どもたちも回を重ねるごとに意見を出し合い、お客様をおもてなしができるようになった事で、子どもたちの自信につながり、地域の方々との関りを通して成長をお見せすることができた。ひろば夏祭りでは人を楽しませる企画を立てることの大変さや、理想と現実でのギャップを身をもって体験でき、更に自分たちの作ったものが売れて喜びの声やお褒めの言葉を頂いたことでの達成感は今まで体験したことのない感動であったと感激していた。cafe楽来での地域の方との交流が糧となり、お祭りらしく大きな声で元気におもてなしができた。絵本作家さんとのワークショップでは、絵本の読み聞かせ、手作り絵本の紹介しつつの読み聞かせ、その手作り絵本を作る作業と3段階に分け、親子で楽しく参加できるワークショップとなった。ただ見たり読んだりの親子関係に作るが加わることで動きが出るので子どもたちも飽きずに楽しんで参加していた。助成金の書き方研修、ファンドレイジング研修、マネジメントの基本を学ぶ管理職基礎研修等に参加し、当法人の弱みである広報やマネジメントに活かせるよう職員間での共有と実践がに活かせるような社内研修や、更に外部研修への参加が必要と感じた。				不登校児が主体となって運営するひろばcafé楽来では、回数を重ねるごとに子どもたちからの意見が出るようになり積極性が出てきた。自主的にセッティングなどを行えるようになり、接客も回を重ねるごとに笑顔が増え声も出るようになった。お客様から美味しかったやありがとうなどの声をいただけ楽しいと感じれるようになり自己効力感が上がった。カフェをやる前とやった後でのGSESC-Rで50%の得点増加は達成できなかったが、全体的に70%増加が見られた。ひろば夏祭りでは2か月前から出店するメニューや店舗数、商品の限定個数を決めた方がいいなどの話し合いを子どもたちで行い、商品の試作づくり、ポスターやチラシ作りに分かれて協力した。当日来店したお客様へのおもてなしは、お祭りらしく大きな声と元気に接客できた。お客様より美味しい、ありがとう等沢山のお褒めの言葉をいただき、アンケートでは良い交流があったとの回答が91%となった。未就学児親子で参加する絵本作家によるワークショップでは、子どもと絵本を作る作業で絵本への意識が変わった親子が多く見られた。アンケートでは70%の方が子育てについての意識が変わったと答えた。ファンドレイジング・広報・マネジメント等・サービス管理責任者等基礎研修の外部研修へ参加し、事務局の業務や役割を理解し、役割を明確に分けることで職務の効率化を図った。研修後には復命書や改定が必要なマニュアルと規程の作成を行った。			
■ 事業を通じて得られたノウハウ				■ 望ましい社会状況を達成するための課題			
カフェや夏祭りでの事業を子どもが主導で運営することはとても大変で、発言や行動できる子どもは少なかった。まずはリーダーを決め子どもたちだけの環境を作ると少しずつ意見が出せるようになってきた。子どもたちの中で運営側として何が必要か、材料費はいくらかかるのかななどを直接お店へ出向いたり、インターネットで調べるなど2か月前から準備を行ったことで、普段はお客さんとして参加していた夏祭りやカフェが、楽しいや美味しいと思ってもらえるように制作することはとても難しく、準備の大切さを学ぶ機会となった。絵本作家さんにワークショップを行っていただいて、普段関わる機会が少ない未就学児との関わり方や伝わりやすい言葉選び、接し方などはを学び、優しく丁寧な伝え方はフリースクールの子どもたちへも応用できると感じ活かしていきたい。助成金の書き方やファンドレイジング研修、マネジメントの基礎を学ぶ管理職基礎研修等に参加し、報告書等で共有し、フリースクール事業を行っていく上で組織全体のレベルアップにつながった。				夏祭りやカフェを通じてフリースクールという場所や通っている子どもたちを知っていただく良い機会となった。しかし、数回だけでは深く伝えることは難しく、今後も継続して定期的に交流を図っていく事で、子どもたちの本質や、我々の活動をもっと知っていただけるようにしなければならぬ。今もなお不登校で悩んでいるご家庭が多く、相談依頼が絶えない状況である。多くの家庭が母親一人で悩みを抱えている状況なので、不登校の子どもさんをもつ親同士の意見交換や交流の機会を増やしていかなければならないと感じ、我々がサポートするべく喫緊の課題と感じている。			
この1年間の活動を通じて		ひろばcafé楽来やひろば夏祭りを通して生徒たちの自己効力感が上げられたこと		を達成しました。		■ 受益者の具体的な変化（自由記入）	
人前に出ることも話すことも難しかった子どもたちが、この活動を通して接客やものづくりを積極的に取り組む姿を見せてくれた事に成長を感じ、更にみんなで話し合う機会や協力することが増え、生徒たちのつながりや仲間意識が増えた							